

コシヒカリの

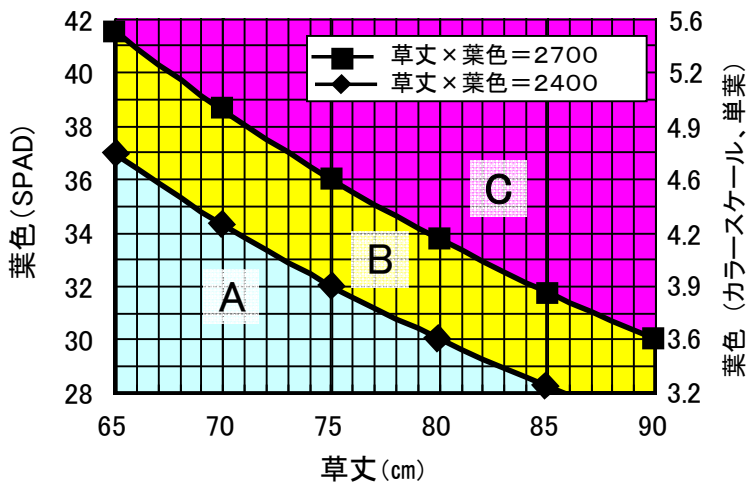
生育診断で

適期に適量の穂肥を！

1回目穂肥

草丈と葉色から1回目穂肥時期・量を判断

① 草丈・茎数の範囲(A・B・C)を確認



幼穂形成期の生育量 (草丈と葉色の積値)

注) 基肥・穂肥に有機50%肥料を用いた場合

基肥・穂肥に化学肥料 (有機質を含まない) を用いる場合は、
 ■を「2800」、◆を「2500」に修正する

② グラフの範囲(A・B・C)をふまえて判断

7/2気象庁の発表によると北陸地方の一か月予報は、平均気温は高い見込み、降水量、日照時間はほぼ平年並みの予報です。期間の後半は、平年同様晴れの日が多い見込み！

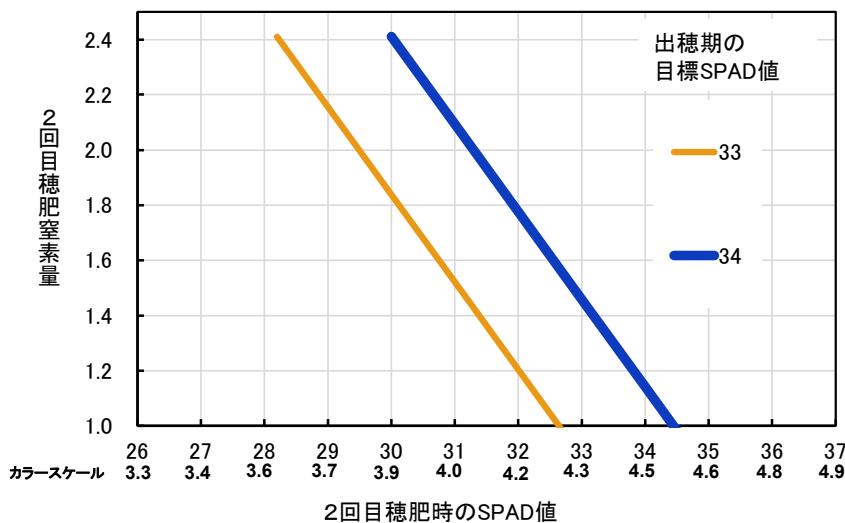
～1回目穂肥施用の目安～

範囲	出穂期までの気象予報別の穂肥対応	
	「高温・多照・少雨」の場合	
A	◎	出穂18日前に基準量
B	○	出穂15日前に基準量
C	× △	※異常高温時には 出穂15日前に基準量を施用

※基準量: 窒素成分で1.5kg/10aを上限に生育状況や地力に応じて決定する。

2回目穂肥

2回目穂肥量は葉色で判断し、N成分を1kg/10a以上に！



出穂期の目標SPAD値に対応した2回目穂肥におけるSPAD値と穂肥窒素量の関係

※データ: 新潟県農業総合研究所R5年度研究速報より抜粋

※基肥・穂肥ともに有機質 50%肥料を用いた分施肥系の試験結果に基づいて作成

※5割減栽培の場合、基肥と窒素の化成窒素の合計が長岡地域は 3.5kg/10a 以内、北魚沼地域は3.7kg/10aになるよう注意する

【全量基肥施肥体系の場合】

出穂期の葉色 (SPAD値) が33を下回ると予想される場合は**追肥**を施用する
 (追肥の施用時期・量は普及指導センター、JAにお問い合わせください)